

初任者研修
市町の課題に応じた研修 2
教育コミュニティ研修

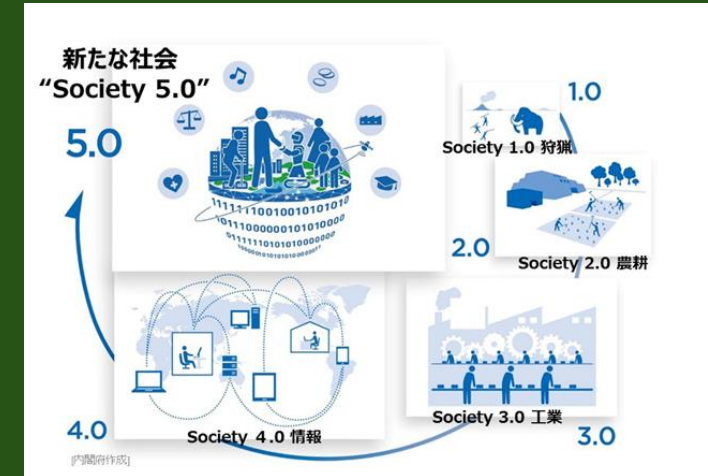
学校と地域の連携・協働について

池田市教育委員会 教育部 生涯学習推進室 地域教育課
社会教育主事 三角竹彦

これからの教育的課題

今、学校は、多様なこどもたちへの対応が求められつつも
こどもたちに選ばれなくなりつつあり、
こどもたちも人口もはっきりと減っていく時代
世の中の「正しいとされること」のアップデートが
頻繁過ぎて見えづらくなったVUCAの時代
何かにつけて、自分でコントロールできないことで
幸薄めでお寒い時代

Society 5.0という新たな社会の到来



これに対応できる人材の育成が「教育」の役割

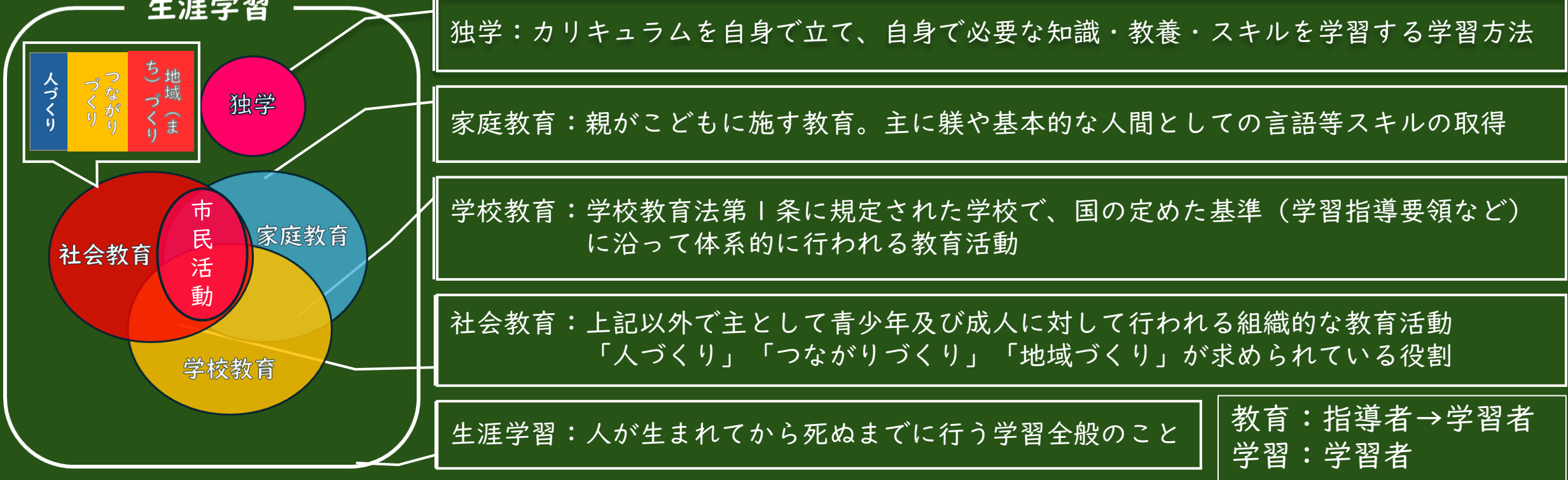
👉 2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

「これまで通り」ができる（何気にすごいこと）再現性重視から
「新たな価値の発見と創造」ができる創造性重視の教育へ

用語解説：「教育」と「学習」

教育：指導者が学習者の能力を伸ばすことを目的とした意図的な働きかけのこと
学習：学習者が主体的に知識や経験を蓄える営みのこと。

生涯学習



教育コミュニティとは？

そもそも、「教育コミュニティ」とは？



学校・家庭・地域社会が連携・協働し、地域全体でこどもたちの健全な成長と学びをささえるための社会のしくみや人間関係のネットワークのこと。

コミュニティを育むための4つの「間」の共有

時間

(Time)

過ごし方
(体験)

同じ汗をどれ
だけ流したか。

空間

(Space)

場所
(居場所)

同じ場所でどれ
だけ同じ体験を
したか。

仲間

(Team)

人とのつながり
(担い手)

同じチームの人
間としてどれだ
け協力できたか。

世間

(Public)

社会的な役割
(担うもの)

同じ目的・目標
を持ってどれだ
け動けたか。

教育コミュニティとは？

地域と学校の連携・協働の歴史 (概要)

人口減少時代への対応



平成29年 社会教育法改正
「教育コミュニティづくり」

学校運営協議会の努力義務化
地域学校協働活動の開始

平成23年 「教育コミュニティづくり」
学校支援地域本部の開始

平成16年 「地域子ども教室推進事業」
(現キッズランド)の開始

平成12年 すこやかネットの開始
(地域教育協議会・大阪府)

平成12年 学校評議員制度の法制化

学校に規律と管理を求める考え方と、地域でゆとりを持った
人間性回復の時間を求める考え方が社会に混在する時代

平成4年 週5日制を段階的に開始
(完全実施は平成14年)

昭和62年 臨教審答申
「開かれた学校」

授業カリキュラムを緩和し、こどもたちが
地域で過ごす時間を増やす動き

少年非行やいじめ、校内暴力などの問題
が深刻化

高度成長期における学校の聖域化

教育委員の公選制の廃止

戦後復興期の学校施設も利用した公民館
活動

教育委員の公選制の導入

国家総動員体制下の皇国主義・軍国主義
の教育

1945

1956

1987

2000

2017

陸軍の指導による
学社協働の
軍国主義教育

民主化の拠点
としての学社
融合

学歴社会の到来と教育機能
の「外注」時代

聖域化された学校を地域に開き、
学社連携を試行錯誤した時代

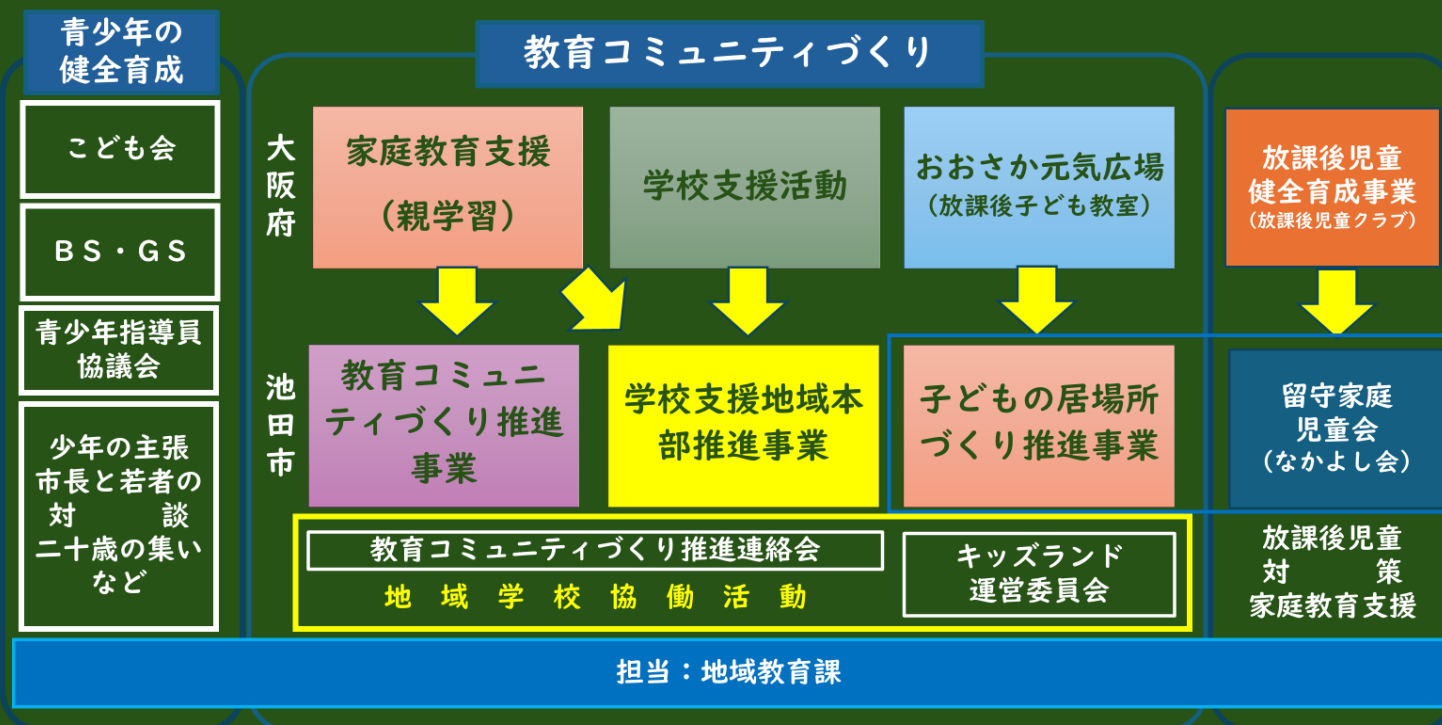
地域による学校支援による
学社連携のあけぼの

人口減少時代への対応。学校を
核とした地域づくり新時代。
学校支援による連携から地域学
校協働活動へ。

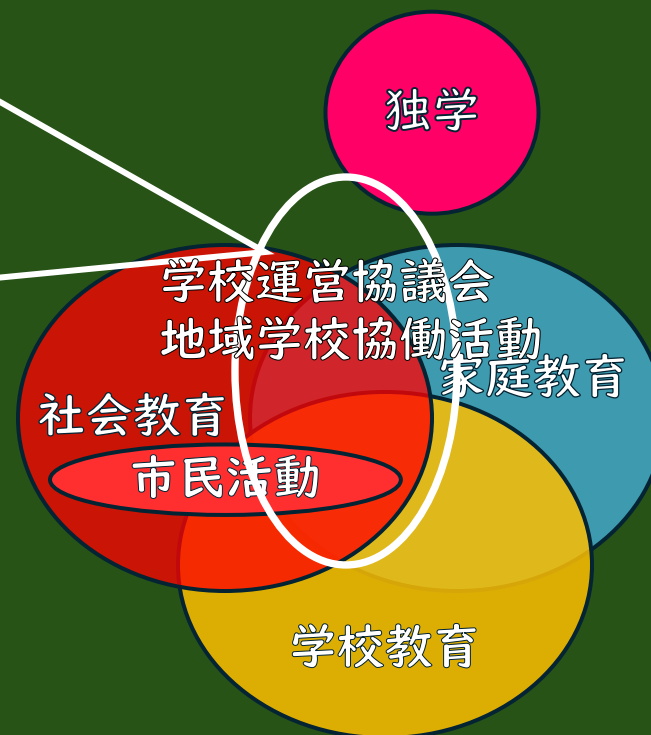
教育コミュニティづくり推進事業とは？

この輪の中の重なり部分を下の取り組みを使って大きくしていく
＝地域の教育力をエンパワメントするつながりづくり
＝教育コミュニティづくり

生涯学習



※教育課程の編成を行う学校運営協議会は、教育政策課の担当



地域の教育力をエンパワメントする両輪（または2つのエンジン）

学校（校区）の教育の方針・カリキュラムの決定

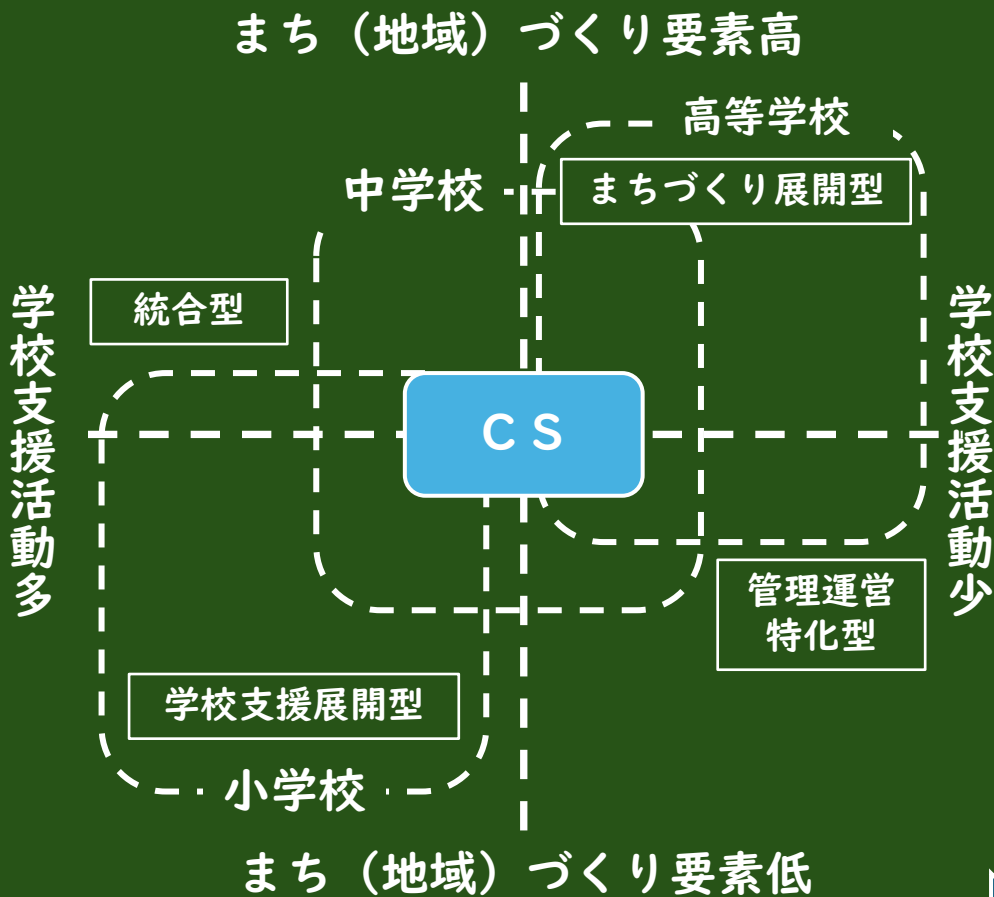
学校運営協議会



地域学校協働活動
方針に基づき、多様な人材の参画・育成・発掘のための諸活動

地域の教育力をエンパワメントすることは、「学校教育の孤立」を防ぐことに繋がる。
☞ 「社会に開かれた教育課程」を実現する意義のひとつ

Wエンジンを回して機能するコミュニティスクール（CS）だけど…



発達段階によって、望まれる機能が違う。
一方でステージを上げた時に機能するための種まきが必要

コミュニティ型の目標設定

(例)

- ・地域学の実践を深めたい。
- ・地域防災に取り組みたい。
- ・ボランティア活動を深めたい。
- ・児童・生徒の問題行動に対応したい。
- ・児童・生徒をまち（地域）づくりに参画させたい。
- ・若者の地元定着を目指したい。

つながり形成

(例)

- ・ICTの活用を進めたい。
- ・高度な工業・農業技術を学ばせたい。
- ・商品を開発し、販路を広げるマーケティングを学ばせたい。
- ・中・高・大の接続を円滑にしたい。
- ・他の地域の文化を学ばせたい。
- ・最先端の技術や実践を学ばせたい。

個の育成

必要課題Ⅱ地域で解決する必要がある社会的課題から、必要と思われる目標設定を行うには、つながりづくりが課題なのか、個の育成が課題なのかを踏まえておく必要がある。

テーマ型の目標設定

そもそも池田市では…

学校（放課後のこどもの居場所づくり）×地域社会

◆池田キッズランド（池田市の全小学校×各校区の地域住民によるボランティア）



- ・ 原型は、平成16年度の国からの委託事業「地域子ども教室推進事業」を受け、子どもたちが安全・安心に遊べる遊び場を大人たちが創る事業（池田子どもの居場所づくり推進事業）
- ・ 校区ごとの社会教育や市民活動のに参加している地域人材やPTAの保護者によるボランティアを結集して、かつてはほぼ全校区が毎週（年間50回程度）実施していた。
- ・ 池田市内のどの学校でも、地域社会のボランティアが学校に入ることが日常化したきっかけとなった。

そもそも池田市では…

学校×地域社会

◆M T P (My Town Project)

大人スタッフを交えて
「よのなか科」式授業（道徳



- ・平成20年（2007）年度ぐらいから本格化した、地域人材による池田中学校教育支援活動の総称

「生徒は街へ、大人は学校へ」

- ・学校からの呼びかけに応じた地域のボランティア（地域住民・PTA・保護者OB・卒業生・大学生・一般応募者ら）によって構成。

タテ・ヨコ・ナナメの関係づくり

- ・活動費は、学校支援地域本部事業（平成23（2011）年度からは、市の単費）
- ・プロデュースの主体は、当初「学校」。
- ・事務局は、平成22（2010）年度よりNPOに。

そのほかにも…

学校×地域社会

細河大根づくり（農業体験）

「すこやかネット」の活動によって、
地域社会が学校と一体となって取り組
まれた活動が数多くあった。

花いっぱい運動

地域清掃活動

昔遊び（三世代交流）

etc. …

赤ちゃん先生

教育コミュニティづくりに関わる2つの大問題とは？

1. 少子高齢化による人口減少問題

指導者の高齢化と後継者不足＝地域の担い手不足
による活動の縮小

2. 学社の連携・協働がなかなか進まない問題

担い手不足による人間関係の断絶とともに起こる取
り組みの断絶←地域の取り組みは信頼関係でしか成立しないため。

地域社会と学校の協働が豊かな学びと豊かな社会を創った全国の実践例



地域づくり



人づくり



つながりづくり

福カフェ（千葉県市川市）
学校内に定期的に住民向けのカフェを設置。校内の草刈りなど、学校の必要課題に取り組む人と人とのつながりを実現。



人づくり

つながりづくり



地域づくり

やまたろうクラブ
（神奈川県横浜市）

学校の必要課題を地域と小・中学校で共有し、解決のための講座を実施したり、「土曜クラブ」を実施するなど、「大人の学び」を活用して協働できる体制を実現。



人づくり

つながりづくり

地域づくり

学校応援団定例会の様子



水墨画グループによる学習支援
（竜王中学校1年生・美術）



竜王西小学校・託児の様子

学校応援団（滋賀県竜王町）
公民館を拠点として地域人材を集め、町全域（町内5校園）の学習支援や学校の生活課題・学習課題についての取り組みを支援したりコーディネートしたりできる体制を実現

地域社会と学校の協働が豊かな学びと豊かな社会を創った 今までの池田市での例

学校(学習活動)×市民団体

◆おさんぽマルシェ (池田小学校6年生×いけだエリアプラットフォーム)

起業家教育

ICT教育

情報教育

STEAM教育

人権教育

UD教育

- ・「池田駅前のにぎわい創出」という地域課題への社会実験に取り組む団体「いけだエリアプラットフォーム」の取り組みに池田小学校の6年生が総合的な学習の時間を使って参加。資金集めのためクラウドファンディングもCamp Fire上で行った。
- ・オリジナル商品や娯楽コーナーの開発、リクーポンラインを意識した価格設定、必要物品の準備計画や購入計画、広報計画など、専門家の助言を受けた子どもたちが開発。
- ・収益金で移動屋台を作成し、寄付。
- ・昨年度は呉服小学校が取り組んだ。

地域社会と学校の協働が豊かな学びと豊かな社会を創った 今までの池田市での例

教科学習×青少年施設

◆市のうつりかわり（大阪教育大学附属池田小学校3年生×水月児童文化センター）

社会との
関わり方

課題発見・
共に生きる力

地域と結びつき、
貢献する力

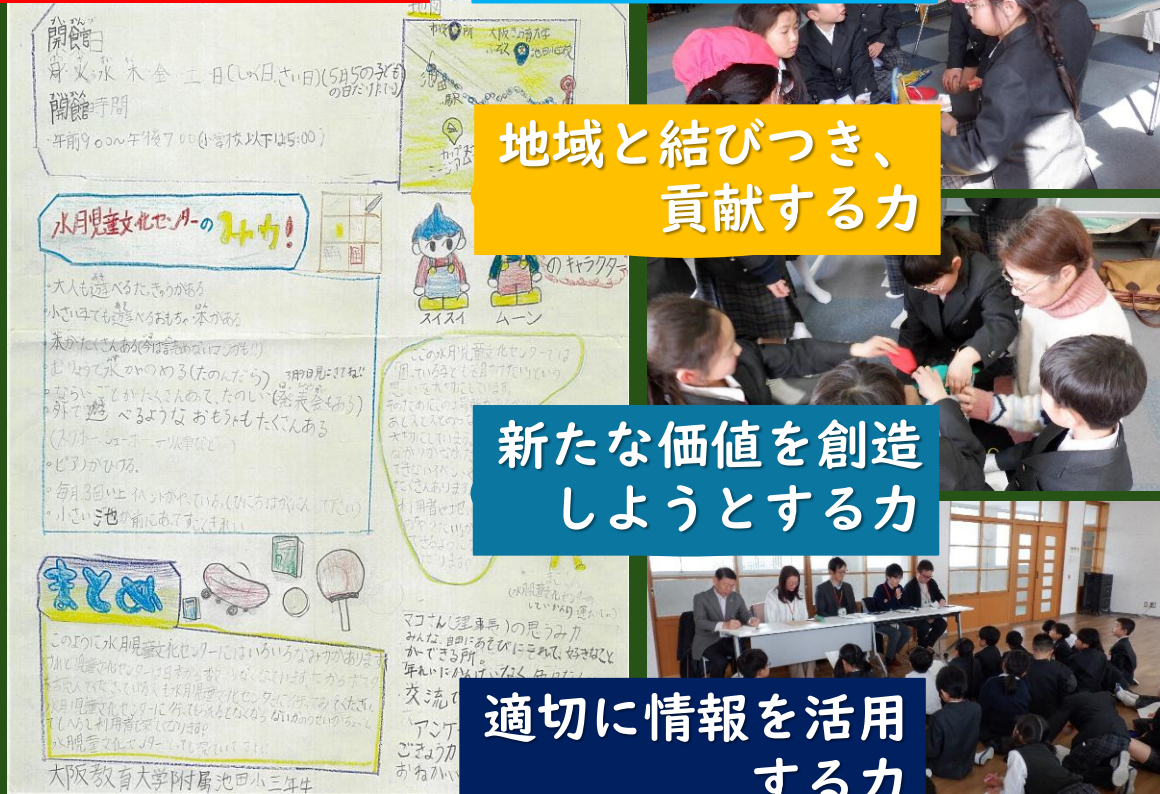
新たな価値を創造
しようとする力

適切に情報を活用
する力

・ 3年生の通常の社会科の授業で、近隣の青少年施設である水月児童文化センターを追い、必要な資質・能力の育成を目指した取り組み。

・ 実際に水月児童文化センターに現状の取材に行き、働いている人の思いや考えを聞き、子どもたち一人ひとりが改善プランを立てた。

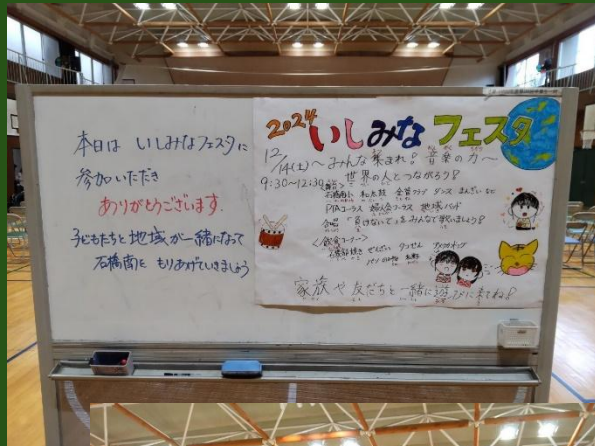
・ 施設の改善プランを考え、実際に施設側に提案して実行することを通して、自分たちの通う学校のある地域の必要課題に当事者性を持って取り組むことができた。



地域社会と学校の協働が豊かな学びと豊かな社会を創った 今までの池田市での例

学校（特別活動・領域）×市民団体

◆わくわくDOYO（石橋南小学校×いしみな学校応援団）



体 力

社会参画

コミュニケーション力

合意形成力

自己決定力

自己実現

- ・PTAやキッズランド、石橋阪大前駅周辺まちづくり協議会やその他NPO法人、社会福祉協議会や市民活動団体合同で月1回（基本的には第2土曜）にイベントをしている。
- ・夏休みなどの長期休暇中には、平日に取り組みを行うこともある。
- ・夏はきもだめし、秋にはスポーツイベント、冬にはクリスマスコンサートなどのイベントも行っている。
- ・無線教室やプログラミング教室もしたことがある。

3つの中で、今年度続いている唯一の取り組み

連携・協働がなかなかすすまない理由は？（例）



「なんだよ！ こっちの都合なんかなんも知らんくせに！」

「ちょっと凝ったことをします。こどもたちのために、ちょっと学校に力を貸してください」

「こどもたちのためになるってんなら、いいよ、一肌脱ぐよー」

1年後・・・

「去年はめっちゃ上手くいって大好評で、今年もやろうって言ってましたけど、今年はちょっと同じことはやれそうにないんで今年はやめます」

「は？ 今年もやるって言うから準備してたのに、一方的にやめるってなんだよ！」

「いや、色々な事情があって…」

「話し合いの一つもないってなんだよ！ 俺たちは部下じゃねえぞ！」



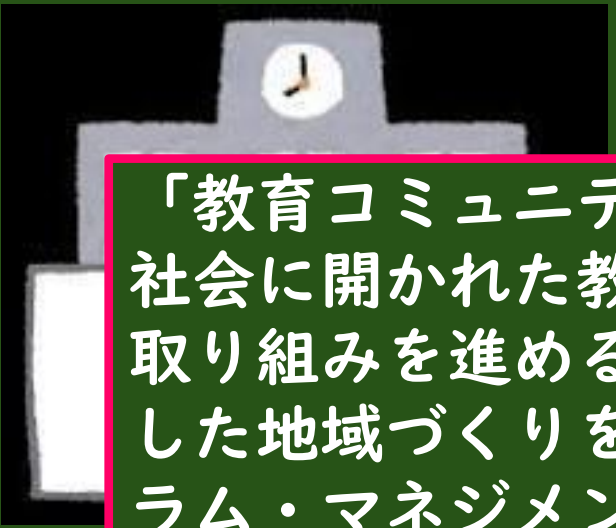
「なんだよ！ こっちの都合なんかなんも知らんくせに！」

連携・協働がなかなかすすまない理由は？(例)

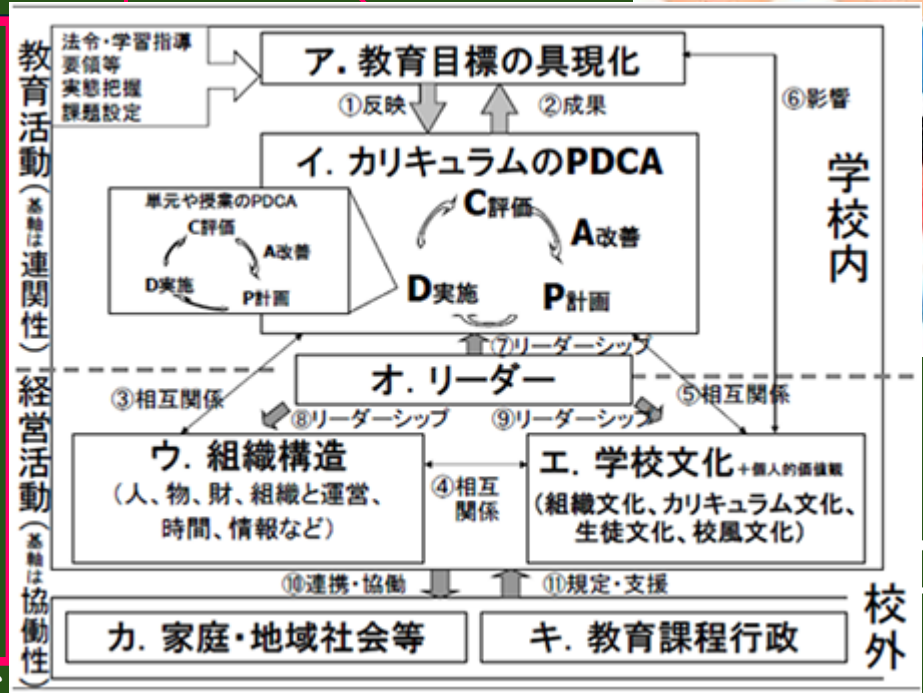
「ちょっと凝ったことをします。こどもたちのために、
ちょっと学校に力を貸してください」



「こどもたちにもなるっていいよ、
一肌脱ぐ」



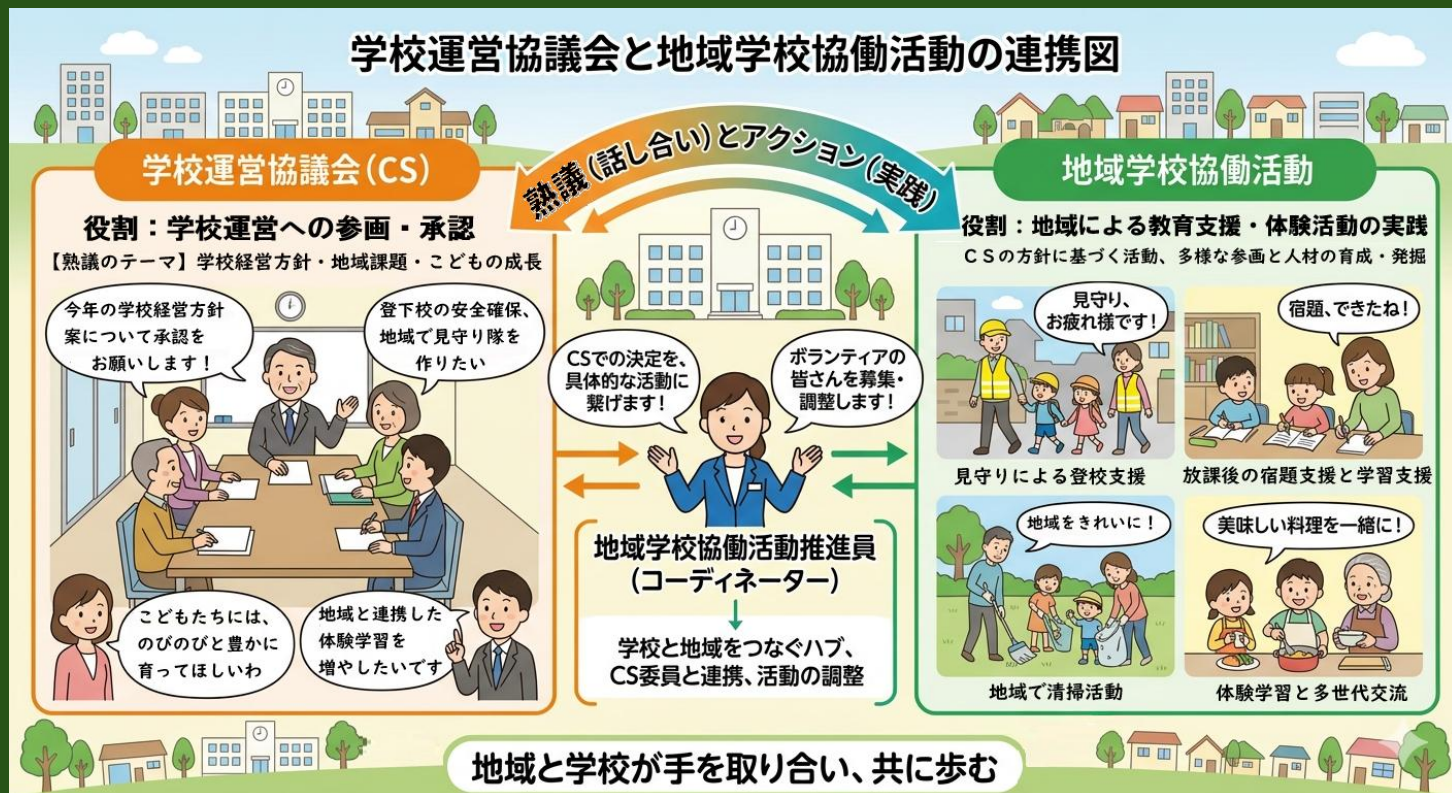
「教育コミュニティづくり」は、
社会に開かれた教育課程の実現する
取り組みを進める中で、学校を核と
した地域づくりを行ない、カリキュ
ラム・マネジメントを行うことで、
学校と地域の教育環境の共創を実現
し、地域の教育力をエンパワメント
していくことができる取り組み。



こっち
かなんも
に！」

「話し合い
は部下じゃね。」

教育コミュニティづくりの教育的意義とは？



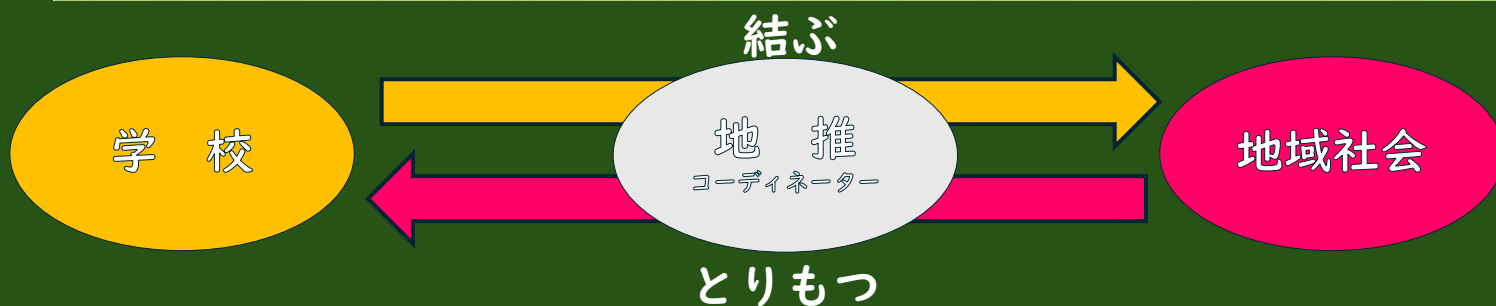
①学校を核とした地域づくりを進めることによる教員の多忙化の解消と教育の質的向上

例) 専門家に学べる「〇〇教育」クラブの地域展開 (移行)、放課後学習支援、おさんぽマルシェ、大教大附属小の市のうつりかわりの実践など

②地域社会の住民同士のつながり強化による生涯学習と社会参画の循環モデルの実現

例) わくわくDoyoなど

③①②の2つを実現することで、より良い形で「社会に開かれた教育課程」と、こどもたちの豊かな学びを実現



「教育コミュニティづくり」に必要なのは何なのかを考えましょう。



学校・地域のヒト

学校・地域のモノ

学校・地域のコト

後半について

【前半のポイント】

「これから」の時代を担うこどもたちの豊かな「学び」を保障するには、学校と地域が協働し、「地域の教育力」を高めなくては難しい。

こどもたちにとって身近な社会である学校と地域が協働するためには、それぞれが、自分たち自身の「もちあじ」を発揮し、活躍していくことが必要。



「もちあじ」を活かすイメージ

それぞれの立場で持てるものを最大限に発揮
＝それまでの自身の「学び」を最大限に発揮
＝もちあじを活かす

職 能

文化・歴史

地

フィールド（自然・施設）

人間関係

域

体験を「学び」
に変える専門性

エンパワメントされた
こどものエネルギー

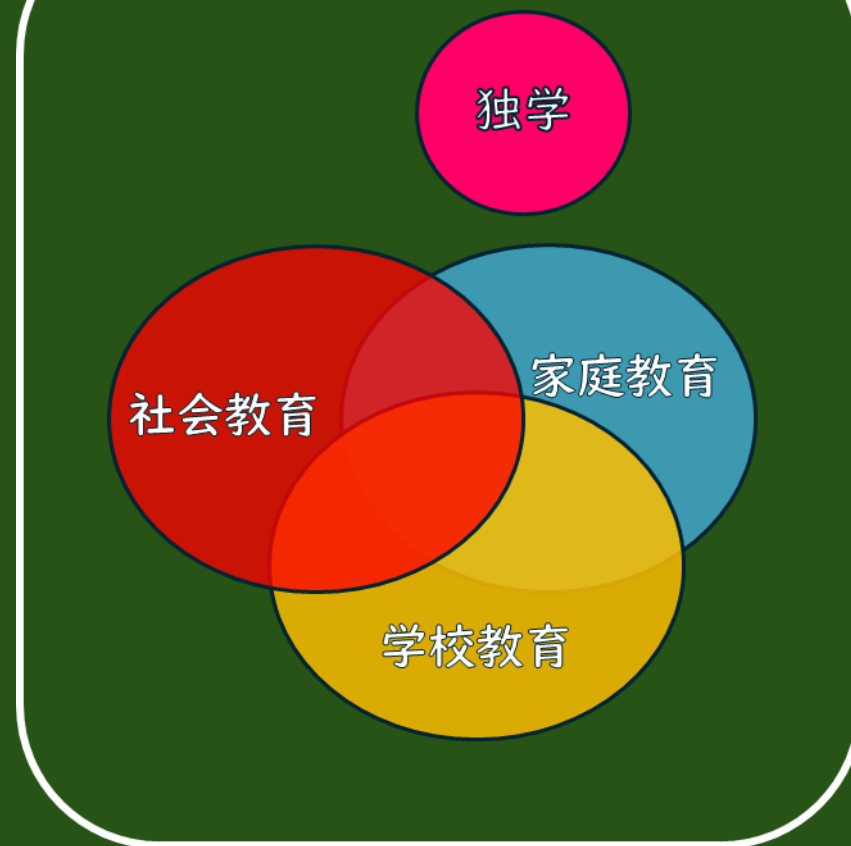
学

学校施設

校内・行政との
ネットワーク

校

生涯学習



1

本計画の趣旨

今、社会は、人口減少や少子高齢化、DX（デジタルトランスフォーメーション）、グローバル化など、変動性、不確実性、複雑性が増し、先行き不透明で将来の予測が困難な時代を迎えています。また、超スマート社会（Society5.0）の到来により、労働市場の構造や職業自体が根本的に変化していくでしょう。このような社会の中にあっても、自分の望む未来を自分自身で描き、描き、幸福や豊かさを創り上げていくことができる教育が、一層重要なものになると考えます。

わたしたちは、池田に生きる一人ひとりの多様な幸せを願い、池田全体の願いでもあるWell-beingを具現化するため、ここに新たな池田市教育振興基本計画を決定しました。

池田の教育で創る幸福感の追求



「教育のまち池田」が描く Well-being を追い求め特色ある教育を創造します

予測することが難しい未来に対応するためには、一人ひとりが、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通じて、自らの可能性を最大限発揮し、個人の幸福と社会の幸福を創り出していくことが重要であると捉えています。

教育の価値は、断片的な知識理解に留まらず、人間だからこそ追求めることができる真理の探究であり、その過程における学び喜びと人と人とのつながり、新しい価値の創出に向かうべきであると考えます。

教育が抱える課題が複雑化・困難化している中、各々の努力や工夫だけに委ねる方法では、これからの多様な教育課題に対応していくことは不可能です。教育の価値を学習者主体で生きた新しい教育観を共有し、学校を中心として社会全体で協働していくことを通して、学びでつながり合う Well-being を創造していきます。



一人ひとりに応じた学習者主体の教育観



創造的かつ実践的な学びで学ぶ喜びを創出

「学ぶ喜び」こそが、「教育のまち池田」が描く Well-being の本質であると捉えます。一人ひとりの学習者を主体とし、創造的かつ実践的な学びを重視することで、生涯を通じたあらゆる学習機会において「学ぶ喜び」を積み重ね、「幸福観」を個人と社会に創造していく教育をめざします。

本計画を、予測困難な社会における「教育のまち池田」の羅針盤として、新しい時代にふさわしい池田独自の教育改革を進めていきます。

自身の「もちあじ」を活かす ＝個人のWell-beingの実現

Well
良好な

+

Being
状態

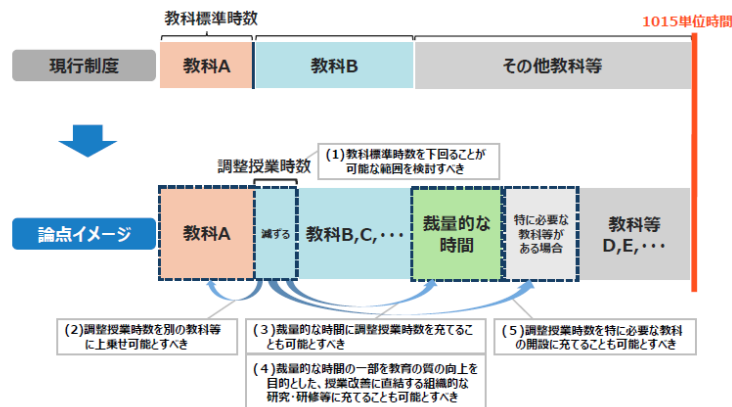
☞ 肉体的、精神的及び社会的に充実して良好な（＝心身共に健康な）状態＝幸せを指す。

個人のWell-beingの積み重ね
が社会のWell-beingにつながる。

変わる、学習指導要領

義務教育段階の柔軟な教育課程の方向性（調整授業時数制度）

多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程編成を促進するため、児童生徒や地域の実態を踏まえて、必要に応じて以下のような取組の一部又は全部の実施を可能とする方向で検討



1 2 調整可能な教科等、調整可能な時数の上限

(検討の前提)

- 調整授業時数制度で時数を調整可能とする教科等や、調整可能な時数の上限については、①現在既に1900校程度（R7.4時点、来年度100校程度増加予定）の適用実績のある教育課程特例校や、②180校程度が取り組んでいる（R7.4時点、来年度20校程度増加予定）授業時数特例（以下「時数特例」という。）、③研究開発学校等の現行制度や運用実態を踏まえて検討する必要。
- これらのうち、現行の時数特例の概要は、以下の通り。
 - ① 下表の黄色部分の科目の時数を減じた上で、他教科等に充てること可能（他教科へのの上乗せ幅に上限なし）
 - ② 学習指導要領に定める内容を全て取り扱う必要があることを踏まえ、減ずることができるのは各教科等の標準授業時数それぞれ1割以上
 - ③ 25コマ以下の教科等は減ずることは不可（週1コマ程度の時数は確保）
 - ④ 教科等横断的な教育課程編成や、探究的な学びの充実に資するとの制度趣旨に鑑み、総合的な学習の時間を減ずることは不可

(調整可能な教科等)

- いずれの教科等についても、学習の継続性等の観点から週1コマ程度の時数は確保が重要。このため、引き続き標準授業時数が35コマ以下の教科等は、減ずることは不可としてどうか。また、調整対象とする教科等も、調整後の時数が35コマ未満になるように減ずることは不可としてどうか。
- 時数特例では、教科等横断・探究的な学びの推進が制度趣旨であったため、総合的な学習の時間を対象から除いていたが、調整授業時数制度は、多様性を包摂する柔軟な教育課程の実現という、一層幅広い制度趣旨で創設することから、総合的な学習の時間も減ずることを可能としてどうか。

(調整可能な時数の上限)

- 研究開発学校で先行的に取組を進めている自治体（※1）では、小学校において112コマ程度（45分単元）の調整時数を生み出して取組を進めている。また、現行の時数特例では、調整可能な最大の調整幅（小6で85コマ）を活用する自治体（※2）も見られる中、今般の調整授業時数制度は、現行の時数特例で認めている教科等間の調整に加え、「裁量的な時間」への活用も認める方向で検討中。
- 以上及び企画特別部会での議論などを踏まえて、引き続き各教科等の内容を全て取り扱うことを前提に、調整可能な時数の上限は、現行時数特例の上限を上回る方向（対象となる教科等のそれぞれの時数の1割以上）で検討することが必要ではないか。具体的な上限の数値については、各教科等の検討状況、研究開発学校の実施やサマリ研究校の申請状況等も踏まえ、さらに精査していく必要があるのではないか。

(現行) 時数特例において調整可能な教科（小学校）6年における最大の調整幅：85コマ

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計
国語	306	315	245	245	175	175	1461
社会	70	70	60	100	105	105	565
算数	136	175	175	175	175	175	1011
理科	90	90	105	105	105	105	600
生活	102	105	-	-	-	-	207
音楽	60	70	60	60	50	50	350
図画工作	60	70	60	60	50	50	350
保健体育	-	-	-	-	60	55	115
道徳	102	105	105	105	90	90	597
外国語	-	-	-	-	70	70	140
外国語活動	34	35	35	35	35	35	209
特別活動	34	35	35	35	35	35	209
総合的な学習の時間	70	70	70	70	70	70	420
合計	1015	1015	1015	1015	1015	1015	6075

(中学校) 3年における最大の調整幅：76コマ

	1学年	2学年	3学年	計
国語	140	140	105	385
社会	105	105	140	350
数学	140	105	140	385
理科	105	140	140	385
音楽	45	35	35	115
美術	45	35	35	115
保健体育	105	105	105	315
道徳・生涯学習	70	70	35	175
外国語	140	140	140	420
道徳	35	35	35	105
総合的な学習の時間	50	70	70	190
特別活動	35	35	35	105
合計	1015	1015	1015	3045

※1 愛知県、名古屋市、岐阜県、静岡県、長野県、山梨県、新潟県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、静岡県、長野県、山梨県、新潟県、富山県、石川県、福井県

※2 愛知県、名古屋市、岐阜県、静岡県、長野県、山梨県、新潟県、富山県、石川県、福井県

授業時数について学校裁量が大きくなる⇒学校ごとの事情に応じたカリキュラムが組みやすくなる。



授業時数に追われず、「地域のこどもを地域で育てる」ことが容易になる。

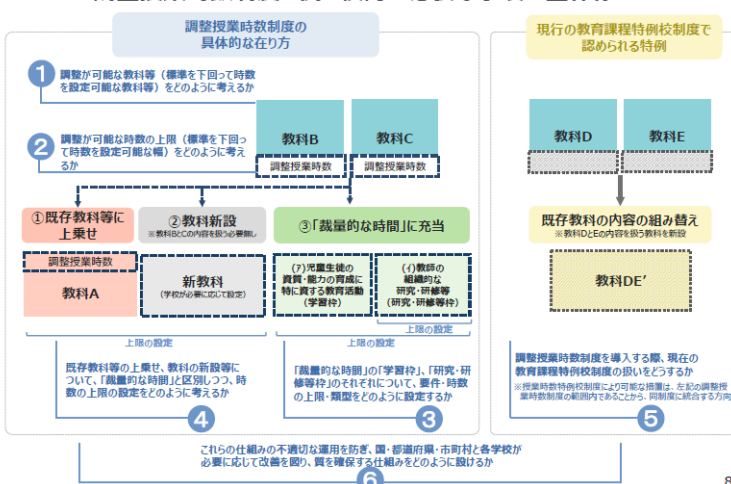


週1コマ、最大でも2コマくらいだとしても、余白を持った形で「社会に開かれた教育課程」の実現の難易度は下がる。

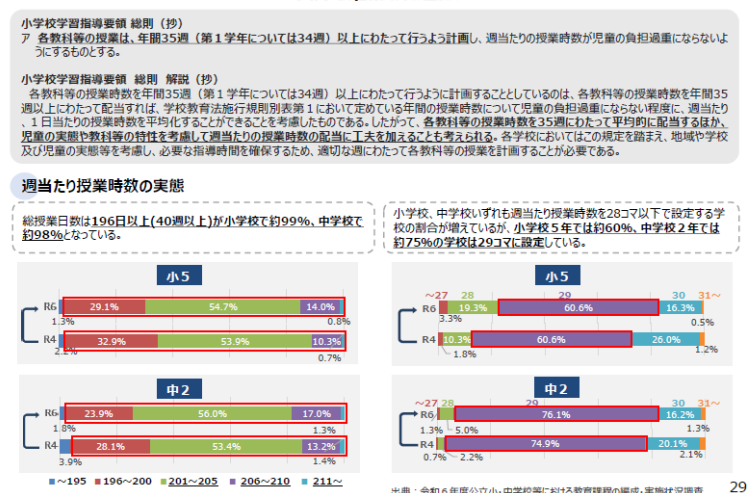


学社共創の無い学校＝特色の無い学校
学社共創のある学校＝特色のある学校
特色の多寡で、選ばれる地域になれるかどうか…という時代が到来する可能性

調整授業時数制度に関し検討が必要な事項の全体像



年間最低授業週数



変わる、教育コミュニティのしくみ

目的・目標の共有
＝発言の基準の共有
「（こどものすがた）のため～」
から始まる熟議の進化・深化

1. 何が変わったの？（役割の違い）

■これまでの「学校協議会」



役割：学校の取り組みを聞いて「感想やアドバイス」を伝える場

関係：学校 ← (感想・ご意見) → 地域 (意見を言う人)

2. 子どもたちの「学び(カリキュラム)」はどう変わる？

■これからの「学校運営協議会」

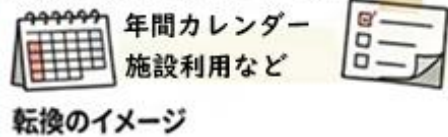


役割：～「どんな子どもを育てるかなど」
目標を共有し、育みたいか？」
「一緒に考える・動く」場

役割：学校 ← (いっしょに育てる)
関係：学校 → 地域 (パートナー)

2. 子どもたちの「学び(カリキュラム)」はどう変わる？

■これまで(やることベース)



- ☑ 運動会・学習発表会など
- ☑ 学校祭・文化祭・宿泊研修など
- ☑ 地域の行事・祭など

イベント(点)から
日々の学び(線)へ

■これから(育む力ベース)

「どんな力(自立心・協力する心
など)を育みたいか？」

⇒目標(ゴール)から逆算して活動を組み立てる 協調 協働力 想像力 問題解決



3. 地域みなさんに関わってほしい理由



教科書を読むだけでは身につかない「生きていく力」は、
地域の人との出会いや、街の中での本物の体験から生まれます。

×「学校のお手伝い」ではなく、○「街の未来の担い手を『いっしょに育てる』」

思いを共有することから始まります。

思いを共有することから始まります。

学校で「やることベース」から「資質・能力ベース」の
カリキュラム・マネジメントが行えていることが、「熟
議の柱」を作り、教員の働き方改革も、「地域づくりの
核となる学校」の在り方の進化・深化につながっていく。

後半について

「地域と学校の協働」のプランを
考えてみましょう。

👉 同じ学園の人同士でグループになりましょう。

①班の中で

発表者・・・1人

他の班の話を聞きに行く人・・・3人

を決めて出し合って話し合しましょう。

②発表の時間は、1回あたり2分間です。

2分経ったら終了して、聞きに行く人は別の班に行きます。

③__回くりかえしたら班に戻り、班で聞いてきたことを共有します。

ワーク

問.

「地域と学校の協働」のプランを考えてみましょう。

地域社会

学 校

注1) なるべく2学期すぐにできることを。

注2) 新たな取り組みでなくても可。今までの取り組みを活用してより効果的なものであればなお可。

創造力を高めるインスタントイノベーションのススメ

★ロジックモデル

計画された行動

①
資源 /
インプット

プログラム運営には何らかの資源が必要

②
活動

もし、当該資源を活用できれば、計画された活動の実施が可能

③
アウトプット

もし、計画した活動が実施されれば、予定した量の製品やサービスの供給が可能

④
アウトカム

もし、予定した活動が実施されれば、参加者は何らかの利益を得る

⑤
インパクト

もし、参加者が利益を得られれば、組織・地域・システムに何らかの変化が起きる

何度もくり返していると見聞きした情報から判断してその時の「適切な」行動を起こすまでのスピードや精度が上がる。

【3行ロジックモデルのススメ】

①手元にあるもの：資源／インプット

☞ひと・場所・道具など

②今すぐできる行動：活動・アウトプット

☞72時間以内にアクション、または試せるもの

③起こしたい変化：アウトカム・インパクト

☞地域や学校にどういうメリットがあるか。

共有

- ①班の中で
発表者・・・1人
他の班の話を聞きに行く人・・・3人
を決めましょう。
- ②発表の時間は、1回あたり2分間です。
2分経ったら終了して、聞きに行く人は別の班に行きます。
- ③__回くりかえしたら班に戻り、班で聞いてきたことを共有します。
- ④班での共有時間が終わったら、全体で共有したいので、各班発表する人を決めておいてください（1人以上。複数可。時間が余ったら順番にひとりひとり）

最後に…「みんなで幸せになろうよ」

交通手段が発達し、遠くの人ともつながりやすくなった時代

ICTが発達し、遠くの人ともつながりやすくなった時代

人間的に合わない人も居るのに、ぶっちゃけ地域社会とつながるって
コスパもタイパも悪くない？



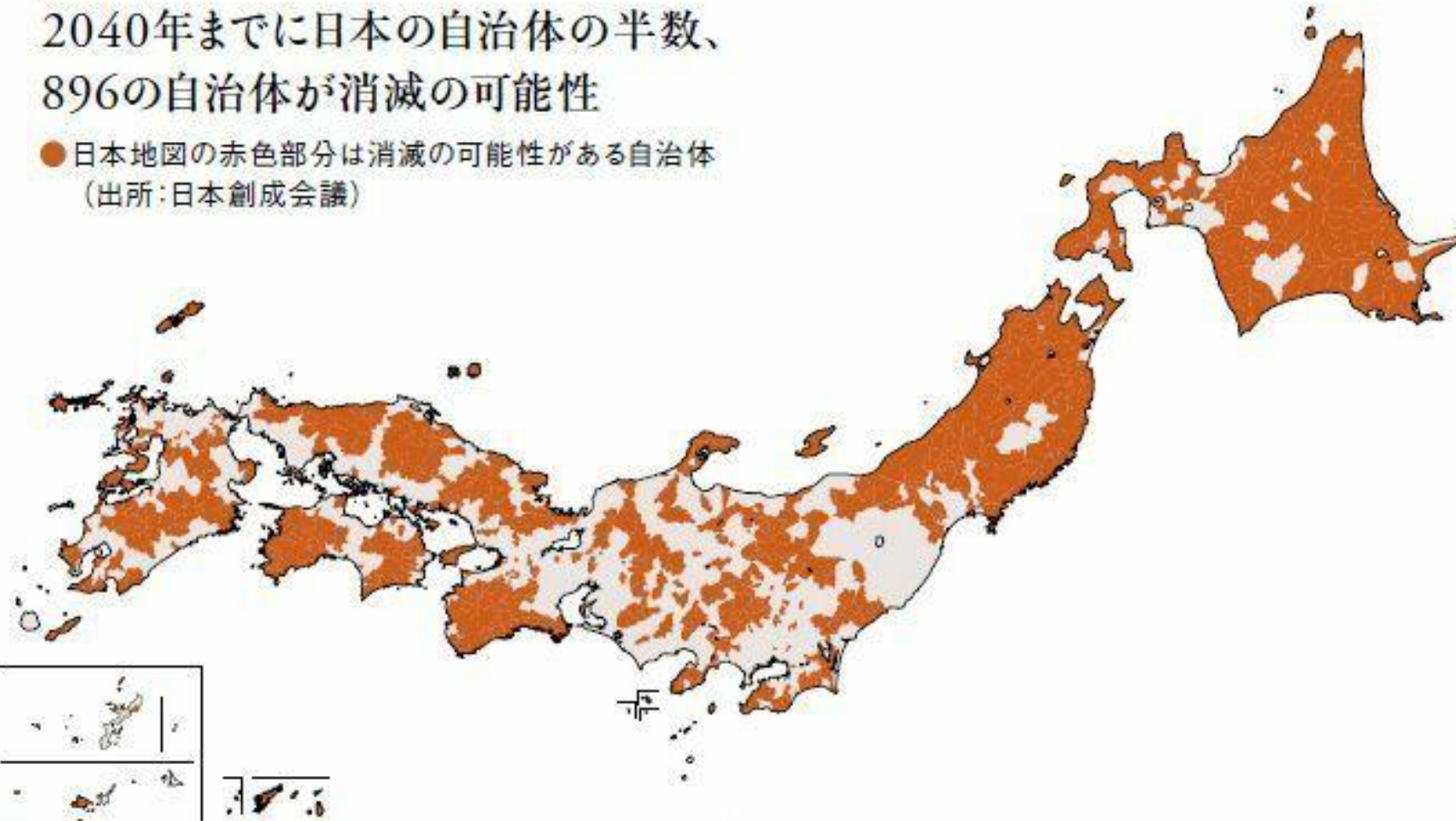
一人ひとりが地元を「持続可能な地域社会」にする
ことに思い入れが持ちづらい＝協力者が出づらい状
況が加速

最後に…「みんなで幸せになろうよ」

→ 2040年自治体消滅マップ

2040年までに日本の自治体の半数、
896の自治体が消滅の可能性

● 日本地図の赤色部分は消滅の可能性のある自治体
(出所: 日本創成会議)



都市部でも、2040年までに
高齢者人口増加率が50%を
超える試算があり、多くの
自治体が抱える社会的問題。

(2040年問題)

☞すでに若者が少なくなっ
ている地方は、そうでない
地方よりも加速度的に高齢
者が増加して消滅に向かう。
若者が比較的多い都市部は
ゆるやかに推移していく予
定だが、**人口貯金**を使い果
たしたところから爆発的に
高齢者が増加し、一気に社
会が弱体化して一気に消滅
する可能性もある。

最後に…「みんなで幸せになろうよ」

交通手段が発達し、遠くの人ともつながりやすくなった時代

ICTが発達し、遠くの人ともつながりやすくなった時代

みんな遠くに行ってしまった、何もかもが無くなってしまった・・・



若い人たちが地元を見捨てて都会に出ていった結果、人口減少と過疎化のWパンチで、地方都市は消滅の危機に

「みんなで幸せになろうよ」

交通手段が発達し、遠くの人ともつながりやすくなった時
ICTが発達し、遠くの人ともつながりやすくなった時代

大災害発生!

「遠くの親戚より近くの他人」だったわ・・・



地域力が乏しいところでは、緊急時に助けてもらえず「孤立」する人が増加
☞ **まちとしての機能が全体的に低下する。**

「みんなで幸せになろうよ」→「自分たちのコミュニティを推して、
選んでもらえるようにしていこうよ」

交通手段が発達し、遠くの人ともつながりやすくなった時代
ICTが発達し、遠くの人ともつながりやすくなった時代

遠くとつながれる社会だっ
てんなら、どこで何をやって
も同じじゃん。

せっかくだから、俺は
「ここ」でやりたいことをや
らせてもらおうぜ！



自身が活躍すべき「場所」として
選択されるコミュニティづくりと人材育成ができるか
否かが、これからの「地域の教育力」のカギ。

